

第77回文化祭

せいこう

西虹

テーマに込めた思い

7色の虹のように、一人一人がそれぞれの立場で輝ける文化祭になってほしいという願いをこめました。また、「せいこう」と読むことから、大成功だったと思える文化祭にしたいという思いも込めています。

目次

Part1

文化祭の概要	1
プログラム内容	2

Part2

準備について	6
--------	---

Part3

1日目オープニング	9
スピーチコンテスト	12
有志展示・文化部展示	13
学年展示	14
ミニフェスティバル	15

Part4

オープニングプロジェクト	16
学年劇	17
混雑状況管理システム・塗り絵コンテスト・募金活動	22
生徒会の動き	22
最後に	24

文化祭の概要

姫路西高校の文化祭は2日間に分けて開催されます。

【1日目 於：姫路西高校体育館】2024年4月16日(火)

オープニング・スピーチコンテスト本選・文化部展示・有志展示・学年展示(新2年)・SSH発表会・図書館開放・PTA喫茶・ミニフェスティバル・スタンプラリー

【2日目 於：アクリエひめじ大ホール】2024年4月17日(水)

オープニング(オープニングプロジェクトチーム)・文化部ステージ・学年劇(新3年)・幕間仕事人・応援団・エンディング

文化祭では毎回テーマ・ロゴデザイン・Tシャツを作っています。

【テーマ】

西虹(せいこう)

全校委員長 一幡 心温考案(由来は表紙に記載しています)

【ロゴデザイン】

77回生 小林 芽生さん制作

第77回文化祭テーマは「西虹」で、虹をテーマにロゴを制作しました。色付けすると背景は夕焼けになっていて、日が沈む＝西の方角を表しています。(小林 芽生さんより)

【Tシャツ】



前プリント:77回生 小林芽生さん制作

後プリント:文化祭ロゴデザイン



文化祭Tシャツは、生徒会執行部とその他の役職で色が異なり、(上画像はどちらも生徒会役員)、劇団スタッフやミニフェス関係者、オープニングプロジェクトスタッフ、総合司会、幕間仕事人が着用することができます。

プログラム内容

1. オープニング(1日目)

オープニングは文化祭中に2回あり、1日目は生徒会執行部の担当者、2日目はオープニングプロジェクトチームが作成します。

1日目は吹奏楽部によるファンファーレから始まり、その後生徒会執行部作成のオープニング映像が流れます。第77回文化祭では、テーマを元に各部活動や文化祭出演団体から「色」が集まり、大きな虹を作るというストーリーで、約3分間の映像でした。

映像が終了し、ロゴデザイン画スクリーンの裏から出現した時は、会場が拍手に包まれました。

オープニング映像が終了した後、教頭先生のユーモアのある開会宣言があり、学校長挨拶、全校委員長挨拶、文化委員長テーマ説明が行われました。

2. SSH 発表会(1日目)

昨年度、2年国際理学科の生徒が取り組んだ課題研究の中で最も評価の高かった研究グループがプレゼンテーションを行いました。この研究は10年以上地道に実験・観察を続けてきたものです。これから探究活動を行っていく1年生の皆さんの参考になったと思います。

3. 図書館開放(1日目)

姫路西高校の図書館は、兵庫県内でトップクラスの蔵書数を誇っており、様々なジャンルの本が所狭しと並んでいます。そんな図書館を自由に見学していただけるように、文化祭1日目限定で開放しました。



上から順に
オープニング動画、吹奏楽部によるファンファーレ
全校委員長挨拶、文化委員長テーマ説明

4. PTA 喫茶(1 日目)

コロナ禍は実施することができなかった企画の一つで、昨年から文化祭 1 日目に PTA の方が運営されています。第 77 回文化祭では、本館 2 階コモンスペースで台湾東部沖地震の募金活動とともに PTA 喫茶の運営を行いました。

5. スタンプラリー(1 日目)

スタンプラリーは生徒会執行部で毎年行っている企画の一つです。文化部展示や学年展示の各展示場所に設置しているスタンプを 11 個以上押した方に、第 77 回文化祭記念グッズをプレゼントしました。今回の記念グッズは、文化祭ロゴデザインのシールとしおりでした。しおりのデザインは右図で、77 回生 松田 乃唯さん制作です。



6. 総合司会(2 日目)

文化祭 2 日目の進行を務めます。文化委員長と連携を取りながら舞台の間を取り持ち、会場の雰囲気をもたせつつ進行を円滑に進めます。舞台転換に時間がかかる場合は、事前に用意していた漫才やトークなどを行います。今回の文化祭では、スペシャルゲストや先生インタビューなど、これまでの文化祭ではなかった場面がたくさん見られました。



7. 幕間仕事人(2 日目)

ステージの間を取り持つ係です。幕間仕事人は「準備について」にあるように、オーディションで選ばれたグループ 1 組が担当します。今年は漫才コンビがオーディションに合格しました。漫才で会場が大きな笑い声であふれ、場を和ませてくれました。



↑「結成 1 周年」の漫才の様子

8.応援団(2日目)

お昼休憩が終わって最初に発表する団体は応援団です。東西体育大会で披露する応援と演舞、3・3・7拍子を披露します。77回生応援団が応援する最後の機会だったこともあり、熱の入った声と演技で会場を圧倒しました。



9.文化部ステージ(2日目)



2日目はアクリエひめじで開催されます。ステージで発表を行うのはプログラム順(写真左上から)に「バトントワリング部」「室内合奏部(吹奏楽部の合同オーケストラあり)」「音楽部」「箏曲部」「ギター・マンドリン部」「吹奏楽部」の計6部活動です。どの部活動もそれぞれの個性を発揮した素晴らしいステージとなっており、とても見ごたえのあるものでした。また、3年生の中にはこの文化祭で引退する生徒もいて、その熱量や3年間の努力の結晶を間近で見ることができた貴重な時間でした。

10.エンディング(2日目)



エンディングでは音楽にのせて、文化祭の準備・本番で撮影した様々な写真や、旧クラスの集合写真などを流し、文化祭を振り返ります。今年度の音楽はマカロニえんぴつの「青春と一瞬」でした。スピーチコンテストやミニフェスティバルなど前日にしか撮れない写真もあり、編集がなかなか終わらず苦労しましたが、曲が終わり拍手が起こったときはエンディングを担当できてよかったと思いました。(エンディング担当より)

映像が終わると文化委員長が緞帳の前で挨拶をします。この半年間積み上げてきた想いや感謝の気持ちを会場にいる方々に直接伝えることができる、最初で最後の時間です。文化委員長の挨拶が終わると、吹奏楽部の演奏で「栄光の架橋/ゆず」を歌います。劇団スタッフや生徒会役員、総合司会はステージ上で、それ以外の生徒は客席で肩を組んで歌いました。コロナ禍で一度は途絶えてしまった伝統を、去年から復活させることができました。また、去年は生徒会役員のみがステージ上で歌っていたのを、コロナ前の形に完全に戻すことができました。

ステージ上から見た景色は一生忘れることのできない思い出になりました。

これにて第77回文化祭は終わりを迎えます。

準備について

大まかな準備の過程をご紹介します！

大まかな時期	準備内容
10月下旬	生徒会執行部内で役割決定
11月	【テーマ・ロゴデザイン決定・各役職募集】 年によって異なりますが、第75回ではテーマは生徒会執行部から、ロゴデザインは77回生から募りました。早い時期ですが、この時期には文化祭の準備が既に始まっています！
12月下旬	【劇団シナリオ会】 各劇団の団長、副団長、シナリオライターでシナリオ会を行います。この時期のシナリオ会では、登場人物の設定や大まかなストーリーの内容を話し合います。シナリオ会は2月ぐらいまで複数回行われます。 【オープニングプロジェクト発足】 オープニングプロジェクトチームに応募した新3年生の中から団長、シナリオライターを選出し、制作やシナリオなどの役割分担を行います。新2年生もオープニングプロジェクトチームに応募することができますが、募集期間は1月上旬～1月中旬になっています。
1月中旬～下旬	【各役職ごとのオーディション】 ミニフェス、劇団、総合司会、幕間仕事人のオーディションを行います。審査基準に達する応募者がいなかった場合は二次選考を行うなど、妥協することなく選考します。
1月下旬	【Tシャツデザイン決定】 Tシャツのカラーやデザインを決定します。例年、新3年生の学年カラーでTシャツを作っています。 【スピーチコンテスト一次予選】 各クラスでスピーチコンテストの一次予選が行われます。 一次予選では全員が2分ずつスピーチをして、クラスでの投票で二次予選出場者を選出します。また、各クラス1名が、二次予選に立候補することもできます。
2月上旬	【スピーチコンテスト二次予選】 各クラスから選出された弁士による二次予選が行われます。先生方と生徒会執行部の担当者の審査によって本選出場者を決定します。

2月中旬	<p>【要項の読み合わせ】 文化委員長が作成した文化祭の要項の読み合わせを、生徒会執行部で行います。内容に不備がないか、誤字脱字がないかなどをチェックします。読み合わせは3月中旬までに3回ほど行います。</p> <p>【学年展示大枠決定】 新2年生(78回生)がクラスごとに行う学年展示では、各クラスの個性が光った作品が毎年披露されます。ここで展示のコンセプトや大枠を決定します。第77回文化祭では動画作品の他に、コロナ禍ではできなかった、体験型の作品を展示しているクラスもありました。教室のレイアウトや装飾などの演出を工夫することで、普段の教室とは一風変わった雰囲気になります。</p>
3月上旬	<p>【Qシート提出】 2日目のステージに出演する団体は、Qシートという照明や音響のタイミングが書かれている書類を作成する必要があります。アクリエひめじの舞台スタッフの方に各団体の演出案をここで一度提出します。打ち合わせ(下記)の資料作りのようなものです。</p> <p>【プログラム作成】 プログラムは、全校生徒や保護者に配布する各団体の紹介文も入ったものです。業者の方と打ち合わせを何度も重ねながら制作していきます。プログラムの制作担当は生徒会執行部です。</p>
3月中旬	<p>【クラス写真撮影】 文化祭2日目のエンディング映像で使用するクラス写真を撮影します。</p> <p>【スピーチコンテスト外部指導】 スピーチコンテスト本選出場者を対象に外部講師による指導が行われます。発声方法やマイクの正しい位置など、細かいところまでご指導いただくことができます。</p>
3月下旬	<p>【要項作成】 要項自体は12月あたりから作っていますが、完成するのはこれくらいの時期です。文化祭は要項をもとに動くので、とても大事な要素となっています。要項の制作担当は生徒会執行部です。</p> <p>【各役職制作・練習開始】 学年末考査が終わり春休みに入ったら、本格的な準備がスタートします。学年劇ではキャストの練習(数回の外部指導含む)や大道具・小道具・衣装の制作を、オープニングプロジェクト(2日目のオープニング制作チーム)は映</p>

	<p>像やモニュメントの制作を、展示を行う団体は展示物の制作など、それぞれの担当する場所の準備を行います。</p> <p>【学年展示準備開始】</p> <p>撮影などの準備ができるのは春休みに入ってからです。</p> <p>1 年前、入学したての頃に見た学年展示のクオリティにあこがれて制作に力を入れる生徒も多いです。各クラスの文化委員を中心に制作をしていきます。映像作品では脚本から撮影、編集までを全て自分たちで進めていきます。</p> <p>【アクリエひめじスタッフとの打ち合わせ(1 回目)】</p> <p>アクリエひめじ大ホール舞台袖で、スタッフの方々と各団体の担当者が事前に作成していた Q シートをもとに打ち合わせをします。スタッフの方々がアドバイスをくださったり、私たちのイメージを直接お伝えしたりできるいい機会になっています。</p>
4 月上旬	<p>【2 日目プログラムリハーサル】</p> <p>体育館で文化祭 2 日目のプログラムのリハーサルを行います。舞台の配置や、時間内に収められているか、Q シートの内容に無理がないかなどの細かいところを生徒会執行部が確認したり、総合司会が紹介文を考えたりします。</p> <p>【アクリエひめじスタッフとの打ち合わせ(2 回目)】</p> <p>この打ち合わせで、ステージの演出が決定します。</p>
4 月 16 日 (文化祭 1 日目)	<p>1 日目は校内で開催されますが、2 日目の仕込みや大道具・楽器等の運搬を行うため、2 日目出演者は該当時間になったらアクリエひめじに行きます。仕込みの内容は、実際に演技をしたり、照明や音響の確認をしたり、立ち位置にバミリをするなどです。仕込みが時間通り円滑に行われるようにアクリエひめじのスタッフの方々と生徒会執行部の担当者がサポートをします。</p>



↑ 実際のバミリの様子

1日目オープニング

1日目のオープニングは文化祭の1日目の朝、まず流れる映像で、文化祭の印象を、特に新一年生に強烈に焼き付ける、重要な役割を持っています。

1.制作

今回の制作においては、文化祭のテーマである「西虹」をモチーフにして、西高でのさまざまな活動からそれぞれの「色」を出し、それが七つ集まって、最後に文字通り「虹」になる、という流れを意識しました。

初めに取り掛かったのは、イントロ部分の撮影でした。流れとしては、正門から生徒昇降口、階段を上がって大講義室へ、であり、これは新一年生に学校内を少し紹介したい思いもありました。そして大講義室では、生徒会のメンバーたちと「文化祭」の文字と、その周りには各々自由な絵を描いていきました。これには1時間ほどかかりましたが、メンバーたちは楽しんで手伝ってくれました。



その後、部活動にお願いし、活動の映像を撮影しました。サッカー部、バトントワリング部、競技かるた部をお願いしました。サッカー部では主にシュートの瞬間を、バトントワリング部ではダンスの様子を、競技かるた部では試合やかるたを実際にはたいてとる様子を撮影しました。どれも躍動感のある生き生きとした映像で、良い素材となりました。



次に、文化祭の花形である劇団（palette、ランキリュウ）の活動を撮影しました。役者と、その迫真の演技を撮ることができたと思います。

そのあとは、一年生の学年展示の準備風景や、ミニフェスのオーデションの映像の編集などの細かい作業を行いました。これで、西高での撮影は完了しました。



ここからは、自宅にて実際に写真から虹を出す作業です。四つ切画用紙に、各映像の初めと終わりの部分の写真を貼っていき、そこから色えんぴつでそれぞれの色、計七色を出していきます。この作業は三日ほどかかりました。

作業の最後には、これらの七色を一か所に集め、一つの虹にします。この作業は、これまでの作業の集大成、ということとてもワクワクしたのを覚えています。虹の下地は、実際のロゴをコピー用紙に印刷し、徐々に色が染まっていく様子をコマ撮りで表現しました。これで、映像が完成しました。

その後は、映像の最後のロゴ部分を、当日実際に出てくるロゴとぴったり合うようにするなどの微調整を行いました。これらは、先生方など周囲の方々の協力を大いに受けました。



2.文化祭当日

文化祭当日がやってきました。体育館が生徒でだんだんと埋め尽くされていきます。吹奏楽部によるファンファーレの後、再生ボタンを押し、いよいよ映像が流れます。

編集しているときに飽きるほど何度も見てきた映像が、この時は特別なものに見えました。生徒のリアクションもよく、順調に映像は進んでいきました。最後に、映像のロゴと実際のロゴの位置が合致し、拍手が起こったとき、私はこの上ない興奮と安堵に支配され、文化祭の成功を確信しました。

今回の制作や映像の放映は、撮影協力をしていただいた方々やその他周囲の方々の協力なしにはあり得ませんでした。本当にありがとうございました。

スピーチコンテスト

スピーチコンテストは毎年、文化祭 1 日目のオープニングが終わってすぐに開催されます。まさに西高を文化祭ムードに染める、一大イベントといえるでしょう。今年のスピーチコンテストでも、一人一人の個性が際立った、素敵なコンテストとなりました。

スピーチコンテストに出場できるのはクラス予選、2次予選を突破した7名で、本選がある文化祭1日目に向けてスピーチを磨いていきます。3月には外部指導の講師の方にお越しいただき、発声練習などの指導をしていただきました。

本選では審査員による審査とは別に、全校生徒による投票が行われます。この投票で決まる特別賞も、スピーチコンテストの目玉の一つです。今年のスピーチコンテストでは、ことわざを現代風にアレンジする三木駆人さん、トイレから世界を想像した益田周蔵さん、挟み言葉を通して言葉の大切さを語った池田百花さん、愛にあふれた西高への要望を語った北歩生さんなど、各々の個性が光る素晴らしいスピーチを聴くことができました。

今年は、最優秀賞を 77 回生長尾楓音さん、優秀賞を 77 回生射延直澄さん、特別賞を 78 回生松村岳さんが受賞されました。長尾さんは自分が好きなプリキュアを例に、好きなものを好きといえることの素晴らしさを語ってくださいました。射延さんはロシアのウクライナ侵攻から2つの共感性について話を広げ、様々な立場から物事を考える大切さについてお話してくださいました。松村さんは、自身が普段利用している姫新線をテーマに、電車を使うときの不満や要望をユーモアを交えてスピーチしてくださいました。

みなさん一人一人が、約3か月間一生懸命練習し、よりよいスピーチを追求していく姿には本当に感動しました。来年も個性あふれる素敵なスピーチが楽しみです。

彼氏いないのにゼクシイ

77 回生 三木駆人さん



想像力の、原点だ！

77 回生 益田周蔵さん



- 12 -

左から、78 回生 松村岳さん、
77 回生 射延直澄さん、
77 回生 長尾楓音さん

文化部展示

各文化部が日頃の活動の成果を教室やコモンスペースで展示しました。制作したものを展示したり、お菓子の販売をしたり、生徒へのアンケート結果を掲示したりしました。また展示と並行してスタンプラリーを実施し、スタンプを集めた生徒に栞とシールが贈られました。スタンプラリーについてはp.3をご覧ください！



左上から順に→
書道部、競技かるた部、囲碁将棋部、写真部、茶華道部

有志展示

新企画として有志展示を行いました。従来の展示は文化部によるものが多く、多才な西高生のために展示の場を増やしたいと思ったことがきっかけでした。展示の制限をできるだけ少なくすることで、これまでになかった形で展示を行うことができました。



学年展示

文化祭1日目に二年生は旧クラスで展示を行いました。今年は一昨年までと違い、コロナによる規制もなく体験型の展示が多くありました。

1組、7組は映像作品、2組、3組、4組、5組、6組は体験型の作品でした。1組は「月曜から夜更かし」、「今日好きになりました。」のパロディ、2組はカジノ「西高のラスヴェガス」、3組はクイズ番組「イグリーグ」、4組はゲームセンター「ブロッコリーファンタジー」、5組はお化け屋敷「廃校魔夜高校」、6組は脱出ゲーム「謎解きは授業の後で～西高から脱出せよ」、7組は「プロフェッショナル～仕事の流儀～」のパロディの展示を行いました。

すべてのクラスがそのクラスの雰囲気があり大盛り上がりで、長い行列ができたところもありました。一年間過ごしてきた仲間と、春休みや放課後、さらには家で時間をかけて準備した展示が大成功に終わったことをうれしく思います。制作期間はとても楽しく、クラスで一つになることができ、一生の思い出になるような時間でした。私たち2年生が昨年の第76回文化祭で先輩方の展示を見て「西高ってすごい、こんなことを自分たちもやってみたい」と感じたように、後輩にも同じように感動を味わってもらえたらとてもうれしいです。各クラスの文化委員を中心とした皆や、先生方の協力があったからこそ成功でした。来年はさらに良い文化祭になることを願っています。



ミニフェスティバル

今年も無事ミニフェスを文化祭 1 日目に開催することができました。11 月頃から募集を始め、多くの団体に出演していただきました。1 月のオーディション後、出演者全員で一つ一つ準備を進めました。当日はリハーサルから始まり、ジェットコースターのように時間が流れていきました。出場者に本番直前に最終確認を行ったのですが、その時の一致団結感が忘れられません。その後、開場の時間が近づくにつれて多くのお客さんに来ていただいて感動しました。観客から発せられるたくさんのわくわく感が体育館を包み込んでいるようでした。『民族のサラダボウル』による独創的な演技や『Abandonnè』による厳かで、かつスタイリッシュな演奏、また『Septet』による熱気あふれるパフォーマンス等々…。観客の興奮は勿論のこと、出演者も演技後の達成感に満ち溢れた様子でした。バレーボール部、陸上部をはじめとする生徒の皆さんや先生方のご協力により、今年のミニフェスが難なく進行し成功を取めることができました。本当にありがとうございました。

以下は、ミニフェスに出場した各団体名と、当日の写真です。

民族のサラダボウル (ダンス)



Abandonnè (ジャズバンド)



Septet (バンド)



オープニングプロジェクト

文化祭2日目のスタートを飾るのはオープニングプロジェクト、今年はハリーポッターをモチーフにした作品でした。

ある日、何者かの手によって幸福のシンボルである「西虹」が消えてしまった。先生に虹の奪還を依頼されたハリー・ロン・ハーマイオニー、そして謎の協力者・ベトー。無事に西虹を取り戻すことはできるのか!?続きはDVD or Blu-ray で。

伝統的にオープニングはセリフを用いず、舞台上での動き・制作物・映像演出によって作り出されます。大道具制作や映像作成に興味がある人、ぜひオープニングに参加してみたいかでしょうか。今年は文化祭テーマ「西虹」に合わせ、大きな虹が作られました。

さあ、第77回文化祭2日目、スタートです！

～制作スケジュール～

12月 2年生募集・役職決め

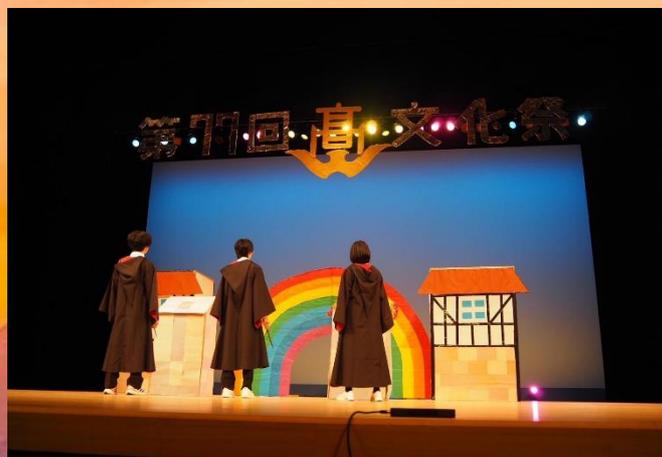
1月 1年生募集・シナリオ製作開始

2月 シナリオ完成・大道具設計開始

春休み 制作・撮影・編集

文化祭1日目終了後 アクリエ姫路にてリハーサル・最終調整

文化祭2日目 本番ステージ



学年劇

about —学年劇とは

姫路西高校の文化祭では、新3年生が2つの劇団に分かれてオリジナルの演劇を披露することが伝統になっています。学年劇はテーマ決定から製作、細部の演出に至るまで生徒主体で進められる、文化祭の一大プロジェクトです。ここでは、第77回文化祭で結成された2つの劇団をご紹介します。

劇団『ランキリュウ』（旧2年1組・3組・4組）

～演目『乱気流』～

高校生の龍には「高嶺の花」と言われる幼馴染がいる。だが最近はめっきり話すこともなくなっていた。

そんな2人の間で、事件は起こる。目を覚まさない幼馴染、龍を苦しめる過去のトラウマ。

—龍は幼馴染を助け出すことができるのか—

劇団『palette』（旧2年2組・5組・6組・7組）

～演目『消えゆく世界で』～

原因も分からぬまま、すっかり色褪せてしまった現代に生きる蒼生、彩葉、楓乃の3人。

姫路城の前で不気味な観光客たちとぶつかった蒼生たちが目を開けると、そこは江戸時代の姫路であった。鮮やかな世界で人の温かさに触れ、感化された3人は色を取り戻すことを決意するが…？

staff —学年劇に携わる人たち

団長（1名）

劇団の責任者です。キャスト練習を進めたり、企画部(下記参照)と連携して準備の計画を立てたりと、劇団全体を見渡し、メンバーを引っ張る立場です。リーダーシップや広い視野が求められます。

副団長（3または4名）

団長とともに劇団運営の中心になります。それぞれが企画部を分担して受け持つこともあります。

シナリオライター（1～3名程度）

劇の出来栄えを決めるともいわれるシナリオを制作します。書いて終わりというわけでは

なく、本番直前までメンバーと話し合っただけで改訂を続け、演出にも関わる重要な役職です。

キャスト（15名程度）

舞台上で演じる人をいいます。セリフを覚えるという難しさもありますが、キャラクターになりきるために大きな努力を重ねます。

企画部（21または28名）

各クラスから7名を選出し、大道具・小道具・衣装・化粧・音響・照明・会計の7種類に分かれます。予算や資材、時間が限られる中、いかに完成度の高いものを創るか試行錯誤します。春休みから本番まで、役職によっては本番終了後も仕事があり、決して楽ではありませんが、その分やりがいも大きなものです。

制作部（多数）

大道具・小道具・衣装の3種類があり、企画部の指揮のもとで実際の作業を行います。上記の役職に所属しない生徒は制作部になります。また、本番で舞台の転換作業にあたる黒子なども制作部の中から選ばれます。

schedule 一第77回文化祭 学年劇ができるまで

2023年

11月上旬 役職決定

団長をはじめ、劇団の中心となるメンバーをクラスで選出します。

12月上旬 シナリオ会開始

団長・副団長・シナリオライターで構成される「シナリオ会」が始まります。時間をかけ、劇のテーマや方向性を話し合います。ここで決まった内容をもとに、冬休みにシナリオライターがシナリオを書き、何度も改訂が繰り返されます。シナリオの修正は本番直前まで続きます。

2024年

1月中旬 キャストオーディション

キャストをオーディションで決定します。シナリオ会のメンバーをはじめとする審査員が定めた基準をもとに、幅広い観点から審査します。

3月上旬 企画部 活動開始

大道具・音響・照明は会場スタッフの方との打ち合わせの都合上、早い段階から書類作成などの準備を行います。これら以外の担当も、製作の計画を立てるなど、春休みの作業に向けて準備を整えていきます。

3月中旬 キャスト練習開始

演技の練習が始まります。まずはゲームなどを通じて信頼関係を深め、それからセリフの練習、演技の細かな調整と順を追って進められます。プログラムを考え、練習をまとめるのもシナリオ会のメンバーをはじめとする生徒です。なお、外部の先生にお越しいただいてアドバイスをいただく機会が計5回あります。プロの的を射たご指摘によってシナリオが大きく変わることも少なくあり

ません。

春休み 準備本格開始

制作部も含め、すべての部門で準備が始まります。部活動をおろそかにしないため、準備や練習は原則として午前中に限られます。本番が日に日に迫る中、人材や知識をフル活用して全力で取り組みます。また、春休み中は会場であるアクリエひめじのスタッフの方との打ち合わせが2回あります。スタッフの方に演出の希望を伝え、確認や修正をしたり、助言をいただいたりします。

4月16日(火) 会場仕込み

学校では文化祭1日目が行われている中、劇団メンバーはアクリエひめじ大ホールで大道具や音響・照明の調整、キャストの位置調整などを行います。劇団の持ち時間は1時間しかないため、団長の指揮のもとで手際よく作業が進められます。

4月17日(水) 本番

アクリエひめじで行われる文化祭2日目こそが、劇団にとっての本番です。楽屋で衣装の準備やメイクを行い、上演開始1時間前からはリハーサル室で演技の最終確認をします。直前のプログラムが終了したら、素早く舞台をセッティングします。そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長やシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたった準備や練習の成果があらわれたものといえるでしょう。40分間のストーリーが終了すれば、思い思いのカーテンコールが繰り広げられます。緞帳が再び下りると、舞台裏は客席とはまた違った感動に包まれます。これを読んでいる在校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいと思います。



↑ 劇団 palette



↑ 劇団ランキリュウ



混雑状況管理システム

第76回文化祭から運用が始まった混雑状況管理システム。77回生の山室昊さんと77回生の山内滉士さんによって提案されました。混雑状況管理システムとは、文化祭1日目に各展示場所がどのくらい混雑しているのかを、リアルタイムでお知らせするものです。各展示場所のDynabookで混雑状況を入力したものが反映され、各階のコモンスペースにあるモニターに映し出されます。混雑状況管理システムを参考にすることで、文化祭1日目をより効率良く楽しむことができます。

塗り絵コンテスト

第77回文化祭では、塗り絵コンテストを実施しました。プログラムの表紙(77回生 濱田優妃さん制作)を各階のコモンスペースに設置し、生徒の皆さんに色付けをしてもらいました。実際の作品を文化祭1日目に1階コモンスペース前にて展示しました。



↑当日の展示の様子

募金活動

第77回文化祭では、4月上旬に発生した台湾東部沖地震の募金活動を生徒会主催で行いました。1日目は本校受付で、2日目はアクリエひめじホワイエに募金箱を設置しました。生徒会では募金箱の制作やポスター作り、生徒への告知をしました。募金は日本赤十字社を通して被災地へ送られました。皆さんのご協力、ありがとうございました。

*なお、当日の募金活動の様子を神戸新聞と産経新聞に掲載していただいています。
ぜひご覧ください。

神戸新聞 2024年04月23日 火曜日 面名 姫路 13 21ページ

姫路西高生が募金活動

台湾東部沖地震の被災地支援



募金活動をする姫路西高校の生徒(姫路市北八代)2

3日に発生した台湾東部沖地震の被災地を支援しようと、姫路西高校(姫路市北八代)の生徒らが校内などで募金活動を行った。今年1月には、台湾から生徒58人が来日し、姫路城などをともに見学。3月上旬には国際理学科の39人が台湾を訪問し、親睦を深めたばかりだった。被災地の力になりたいと生徒会が中心となり募金の実施を決めた。募金活動は文化祭のあつた16、17日に実施し、生徒会員らが保護者や生徒にご協力をお願いし「す」と呼びかけた。生徒会役員の広瀬あこさん(16)は、多くの建物が崩れた現地の映像に衝撃を受けたといい、「互いに困ったときには助け合える関係を築きたい」と話した。(播高 声)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

文化祭における生徒会役員の動き

文化祭は生徒会執行部が企画・運営をしました。開催の約半年前、154代生徒会執行部発足と同時に文化祭に向けての準備が始まりました。生徒会役員の中で全体統括、学年劇、学年展示、文化部展示、1日目オープニング、2日目オープニング、2日目エンディング、ミニフェスティバル、スタンプラリー、スピーチコンテスト、有志展示という担当に分かれて、春休みに入るまでは各担当が企画の運営準備を行いました。



↑文化祭Tシャツを販売している生徒会役員



↑制作途中のロゴ

↓ロゴを制作している生徒会役員



春休みに入るまでに行われた主な文化祭準備としては、ミニフェスのオーディションやスピーチコンテストの二次予選などがありました。いずれも生徒会担当者が運営を行いました。春休み以降に手の空いた役員はロゴのモニュメント制作やスタンプラリーの景品づくりをしました。

また、2日目エンディングに使用する活動風景の写真撮影や、1日目オープニングの動画撮影などもしました。

そして時は進み文化祭前日、4月15日には1日目に展示をする団体の準備やミニフェスのリハーサル、吹奏楽部によるファンファーレのリハーサル、ロゴの取り付けをしてから、1日目オープニングのリハーサルを日が暮れるまで行いました。そして翌日、生徒会役員はそれぞれの持ち場について仕事をしていました。体育館の照明係、緞帳やスクリーンの開閉、開会式後のステージセッティングなどです。すばらしいオープニング映像の後にロゴが出てきて、会場全体が大きな拍手に包まれた時はとても感動しました。その後開会式、続けてスピーチコンテストを行いました。スピーチコンテストでは生徒会役員4名も審査員とし

て参加しました。スピーチコンテスト終了後は審査員会議を行い、スピーチコンテストの受賞者を決定しました。展示等に関しての当日の仕事は片付けぐらいだったのですが、同時進行で2日目のアクリエひめじでの文化部ステージに向けての仕込みを行いました。

午後からは本校体育館にて、ミニフェスティバルを開催しました。ミニフェスティバルでは観客の誘導、進行などを、生徒会役員と会場係の生徒で行いました。そして各展示の片付け終了後、学校にいた生徒会役員全員でアクリエひめじへ移動して2日目エンディングのリハーサルを行いました。

そして迎えた文化祭2日目、生徒会役員の最初の仕事は一般生徒の誘導でした。一般生徒が入場した後は、ステージの時間管理、各団体の誘導などそれぞれの仕事にあたっていました。この時の生徒会役員の大半は1日目で担当の企画が終了し、リラックスした表情で文化部ステージを楽しんでいたように思います。私も、自分の心に響いたステージで思わず涙を流してしまうこともありました。エンディングまで無事成功に終わり、観客からの盛大すぎる拍手を受けて、この半年間が報われたような気がしました。



最後に・・・

ここまで読んでいただき、本当にありがとうございました！

「西虹」のテーマのもと始まった第77回文化祭。テーマ通りに全校生徒一人一人がキラキラと輝き、一つの虹を創り上げることができました。2年前に見た文化祭のクオリティの高さ、先輩方のすごさを忘れることができず、裏方として文化祭を創り上げたい！という想いで、半年間文化祭の準備をしてきました。この半年間は本当に楽しく、充実していた一方で、たくさん悩んだり苦しんだりした時期もありました。改めて先輩方の凄さを思い知り、自分のふがいなさに涙したこともありました。また、過去の文化祭を超える新しい文化祭を創り上げようという目標を持ち、新しい企画を考えたり、新しい方法を取り入れたりしました。文化委員長としての仕事は思っていたよりもずっと大変で、時にはやめてしまいたいと思ったこともありました。それでも私が最後まで文化委員長として皆さんの前に立っていることができたのは、生徒会役員の皆がずっとそばにいてくれたからです。楽しいことも辛いこともみんなで共有して、一つ一つの仕事を共にこなした時間は、私の宝物になりました。

文化委員長としてこのような貴重な経験ができて、本当に幸せでした。また、文化祭が終わった後に、「ありがとう」「お疲れ様」と感謝の言葉をかけてくれる、温かく優しい仲間と出会うことができ、本当に幸せでした。

これを読んでいる方の中には西高に入学しようと思っていらっしゃる方もいると思います。

どうか、西高の文化祭をこれからもより良いものになるよう、皆さんらしく創り上げていってください。

最後になりましたが、文化祭を運営するにあたってお世話になった先生方、生徒の皆さん、アクリエひめじスタッフの皆さん、その他業者さんや外部指導の先生方など、文化祭がより良いものになるようお力添えをいただいた皆さんに多大なる感謝の気持ちを述べて、最後の言葉とさせていただきます。

(154代文化委員長)

制作者紹介 (154代 生徒会執行部)

表紙・あとがき	中井心優(文化委員長)
文化祭の概要・プログラム内容	
準備について	
混雑状況管理システム・塗り絵コンテスト・募金	
生徒会の動き	
1日目オープニング	改發尚雅(1日目オープニング担当)
スピーチコンテスト	廣瀬あこ(スピーチコンテスト担当)
文化部展示・有志展示	鷹谷和紀・春名由菜(展示担当)
学年展示	北治玲那(学年展示担当)
ミニフェスティバル	山田優芽・上田彩葉(ミニフェスティバル担当)
オープニングプロジェクト	河内亮太(オープニングプロジェクト担当)
学年劇	一幡心温(学年劇担当)